



— 第624号 —

新潟市中央区浜浦町1の1

浜浦小学校

電話 (025) 266-3181

<http://www.hamaura>city-niigata.ed.jp/

二度とない機会に

校長 齋藤 純 一

一期一会。

辞書で調べると、「一生に一度だけの機会」とあります。二度とない機会であるかもしれないことから、そこでの人との出会いを大切にしようという意味で使われます。この「一期一会」が、今年の修学旅行のテーマでした。

私たちのグループは、まず寺泊の「ときみーて」に行きました。一度絶滅した朱鷺の繁殖を再度佐渡で試みる中、どのような危機が迫ろうとも何としても朱鷺を守ろうと、全国各地で分散飼育が始まりました。その一つが、この「ときみーて」です。そこでは、卵を産んでもうまく育てられない親鳥の代わりに育てること、逆子になった卵の殻を少しずつ破って羽化させることを聞きました。特に「みんな、大切な命を守っています」という一言が心に残っています。

その日の夜、イルミネーションを見学しました。その係員さんと話しましたが、東京の方で、この時期だけ妙高に支援に来るとのことでした。そして、こんな話をお聞きしました。「今年は、いつもより早く妙高に来ました。今年のオープンは七月一日。でも、その前の日に、新潟市から修学旅行で来てくれる六年生がいると聞きました。その子たちに見せられるように、準備をするために、早く来ました。こんな風に、喜んでもらえて、

本当に良かった」と。

二日目に私たちは、糸魚川のフォッサマグナミュージアムに行きました。そこで、近くの黒姫山から取れる石灰岩から化石を見つける活動に取り組みました。そこでずっと化石の発掘や調査をしている学芸員さんが、子どもたちが見つけた石を丹念に見てくださっていました。私が御挨拶すると、次のように話されました。「今回化石を見つけたお子さんがいました。それは、はるか昔に、この地球上で生命活動していた貴重な証です。ぜひ大切にしてくださいとお伝えください」と。これが、私の一期一会の出会いでした。

最後に、長岡市の戦災資料館に行った子どもたちの感想を紹介します。

〇〇〇さん「八月一日の長岡空襲で、いろいろな戦どう機が来て、一夜にして長岡が焼け野原になったことを聞き、戦争はこわいものだと思えました。」

〇〇〇さん「この修学旅行を通して学んだことは、『戦争を決して繰り返してはいけない』ということです。戦災資料館の映像を見て、こんな悲惨な状況とは思いませんでした。」

その後、子どもたちは長岡花火館へ行き、復興の証である長岡花火の歴史を学びました。戦争の無意味さとそれを乗り越えた人間の強さとの出会いも、今回の一期一会だったと思っています。